

## 第6学年 音楽科学習指導案

日時 平成19年11月16日(金) 5校時  
場所 奥州市立真城小学校音楽室  
学級 6年1組(男15名女13名 計28名)  
授業者 教諭 伊藤久美

### 1 題材名 つくろう!くりかえしの音楽

### 2 題材設定の理由

#### (1) 題材観

本題材は、学習指導要領 第5学年及び第6学年 A 表現(4)ア「曲の構成を工夫し、簡単なリズムや旋律をつくって表現すること」の指導事項から設定する。

音楽科の領域は「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」であるが、各種の調査やアンケートの結果から、授業での取り扱い、「歌唱」「器楽」が中心となり、「創作」については指導者も児童も苦手意識があることが伺える。

音楽科における基礎的な能力とは、音楽を形づくっている諸要素を感受する能力である。音楽は諸要素(音色・リズム・旋律・音の重なりや和音の響き、形式・速度・強弱)と雰囲気・曲想・美しさ等がかかわり合って成立している。音楽の授業は、このことの学習内容が入らなければ、音楽の授業とはいえない。これは「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」どの領域を扱う場合でも同じである。

音楽には「かたち」と「なかみ」から成立している。「かたち」は音楽の諸要素と仕組み(諸要素の関連性)「なかみ」は曲想やイメージである。人間が音楽関わるとき「かたち」を知覚し、それによって「なかみ」を感受することが中核にくる。そして技能が関わってくる。そこで本題材では「かたち」を意識した「創作」の活動につなげる場面を設定した。授業で扱うのは「音楽的諸要素」である。音楽の基本となる「かたち」に着目し本題材では簡単なフレーズを創り、それを音楽的な諸要素(速度、強弱)の工夫を加えてくりかえすことにより自分たちの音楽を創る活動をする。

くりかえしのある音楽を知覚させるための教材として「パールギュント第1組曲山の魔王の宮殿にて」「ボレロ」を選択した。

「パールギュント第1組曲山の魔王の宮殿にて」は非常に特徴のあるグロテスクなテーマが繰り返され音が次第に大きくなり、速くなっていく曲で、速度の工夫、強弱の工夫がある。

「ボレロ」は最初の8小節を除いて終始リズムと調性が変わらず変奏や展開はなかった一つのクレッシェンドでできているので強弱の工夫がある。

この2曲を用い、音楽的諸要素の工夫を感じ取らせ自分たちの曲作りに活かしていく。

#### (2) 児童観

子ども達は、歌を歌ったり演奏をしたりすることが好きで、朝の会では日直が選んだ曲を歌っている。今月に行われる「音楽発表会」に向けても休み時間に歌やリコーダーの練習をするなど意欲的な態度が見られる。しかし、リコーダー、鍵盤ハーモニカなどの楽器の演奏技術には差があり、譜読みを苦手としている児童も多い。

今までに「ラバースコンチェルト」において打楽器のリズム伴奏をつけたり、「アンデスの祭り」で歌とリコーダー鍵盤ハーモニカによる合奏をしたりし表現する喜びを味わっている。しかし、曲の音楽的な要素に着目して表現の工夫をするのは初めてであるので要素に気付かせながら取り組ませていきたい。

#### (3) 指導観

音楽を創るときに必要なのは、「かたち」(音楽的諸要素、表現の工夫)と技能であると考え。くりかえしの音楽を創るにあたってあらかじめ子ども達には音のカードを配りその音で曲作りをする事や休符を入れることなど注意することを指示する。そして二人一組で創ったフレーズをグループでつなぎ合わせて曲作りをさせる。次にくりかえしの音楽があることを知らせ、「かたち」(音楽的諸要素)に気付かせる。この時身体表現をするなどして諸要素について体で感じさせた

い。また、自ら表現の工夫をすることで自分たちで曲を作り上げていく楽しさやすばらしさを感じ得させていきたい。くりかえしただけの音楽でも立派な作品になっていることに興味を持たせ自分たちで創ったフレーズに工夫を重ね表現の工夫をしていく充実感を体得させたい。

### 3 教材

「ペールギュント第一組曲より山の魔王の宮殿」 グリーグ作曲  
「ボレロ」 ラヴェル作曲

### 4 題材の目標

- (1) 反復することで音楽が創られていることに関心をもち、強弱や速度の変化を感じながらに意欲的に表現する。(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 反復することで音楽が創られていることを感じ取り、強弱や速度の変化を生かした表現の工夫をする。(音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 反復することで音楽が創られていることを活かして、強弱や速度に気をつけて表現する。(表現の技能)

### 5 題材の評価規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点3 表現の技能
題材の評価規準	反復することで音楽が創られていることに関心をもち、強弱や速度の変化を感じながらに意欲的に表現している。	反復することで音楽が創られていることを感じ取り、強弱や速度の変化を活かした表現の工夫をしている。	反復することで音楽が創られていることを活かして、強弱や速度に気をつけて表現している。
学習活動における具体的評価規準	①反復という構成原理に関心を持っている。 ②強弱や速度を工夫する楽しさを感じながらパターンの反復と変化をつくらうとしている。	①反復することで音楽が創られていることを感じ取っている。 ②反復における強弱や速度の変化を感じ取っている。 ③反復における強弱や速度の工夫をしている。	① 反復する曲のモチーフを創作している。 ② 基になる旋律に強弱や速度の変化を加えて、創作している。

### 6 指導計画及び評価計画

時間	ねらい・学習活動	具体的評価規準との関連	評価方法等
1	○ゲーム的な作曲をし、繰り返しによる曲にふれる。  ○反復する曲のモチーフを創作する。	観点1—① 観点2—①  観点3—①	・反復という構成原理に関心を持っている。<ワークシート・発言> ・反復することで音楽が創られていることを感じ取っている。<ワークシート・発言>  ・反復する曲のモチーフを創作している。<ワークシート・観察>

2 (本時)	○曲を鑑賞し、反復における強弱や速度の変化にふれる。	観点2—②	・反復における強弱や速度の変化を感じ取っている。〈ワークシート・観察〉
	○前時に創った基になる旋律に表現の工夫を加える。	観点1—② 観点2—③  観点3—②	・強弱や速度を工夫する楽しさを感じながらパターンの反復と変化をつくろうとしている。〈ワークシート・観察〉 ・反復における強弱や速度の工夫をしている。〈ワークシート・観察〉 ・基になる旋律に強弱や速度の変化を加えて、創作している。〈観察・演奏発表〉
3	○創作表現の発表し、お互いの表現の工夫を参考にしながら、さらに作品に活かす。	観点2—② 観点3—②	・反復における強弱や速度の工夫をしている。〈ワークシート・観察〉 ・基になる旋律に強弱や速度の変化を加えて、創作している。〈観察・演奏発表〉

### 7 本時の目標

- ・ 強弱や速度を工夫する楽しさを感じながら、意欲的にパターンの反復と変化をつくる。(観点1)
- ・ 反復における強弱や速度の変化を感じ取り、表現の工夫をする。(観点2)
- ・ 基になる旋律に強弱や速度の変化を加えて、創作する。(観点3)

### 8 本時の評価規準

学習における 具体的評価規準	概ね満足できる状況であると 判断する具体的な状況例 (B)	Bのうち十分満足できる状態であると 判断する具体的な状況例 (A)
観点2—② 反復における強弱や速度の変化を感じ取っている。	ワークシートに強弱や速度の変化によって、曲想が変化していくことの内容の記述をしている。	ワークシートに強弱や速度の変化について曲想が変化し、豊かになっていく内容の記述をしている。
【努力を要すると判断する児童(C)への指導の手立ての例】		
・ 2つの曲の比較をし、曲想が変化していくための諸要素を確認していく。		
観点1—② 強弱や速度を工夫する楽しさを感じながらパターンの反復と変化をつくろうとしている。	グループでの話し合いで、強弱や速度について工夫したいことを発言したり、記述している。	グループでの話し合いで、強弱や速度について工夫したいことを具体的に発言したり、記述している。
【努力を要すると判断する児童(C)への指導の手立ての例】		
・ グループでの話し合いの中で、他の意見を聞きながら、考えたことを発言していくことを助言する。		
観点2—③ 反復における強弱や速度の工夫をしている。	ワークシートに、グループで強弱や速度の工夫について、その方法や楽器選択の内容の記述をしている。	ワークシートに、グループで強弱や速度の工夫について、その方法や楽器選択について、具体的な記述をしている。
【努力を要すると判断する児童(C)への指導の手立ての例】		
・ グループでの話し合いの中で、楽譜などを用意させ、何を変化させていったらよいのかを明らかにさせていく。		
観点3—② 基になる旋律に強弱や速度の変化を加えて、創作している。	グループ練習や発表の中で、流れに乗ってスムーズに演奏している。	グループ練習や発表の中で、イメージしたことが明確に感じられるように演奏している。
【努力を要すると判断する児童(C)への指導の手立ての例】		
・ グループで話し合いをしながら、アドバイスをしあい、変化の工夫が分るように練習するように促す。		

8 本時の展開

	学習内容と学習活動	指導上の留意点 ◇評価
導入	1 学級の雰囲気をつくる。 ・身体運動を伴う音楽遊び	・ウォーミングアップを兼ねて本時の題材に関係のあるものを行う。 ・拍の流れに乗るようにする。
展開	2 課題把握 くりかえしの音楽の表現の工夫をしよう	授業の視点③ 小学校・中学校9年間を見通した創作授業の在り方
	3 「ペールギュント第1組曲より山の魔王の宮殿」「ボレロ」を鑑賞し、自分たちの音楽づくりに活かせることを話し合う。 ・強弱の変化 ・速度の変化 授業の視点① 音楽の仕組みに気付くことから、リズムや旋律を作って表現する授業の在り方	・一班4人のグループにする。 ・前時に創ったモチーフに工夫を加えていくことを知らせる。 ◇観点2-② 反復における強弱や速度の変化を感じ取っている。 <ワークシート・観察>
	4 鑑賞したことをもとにグループで旋律の反復の音楽を工夫する。 ・どんな工夫をするか選ばせる。 速度の工夫 強弱の工夫 楽器の種類などの工夫など ・工夫する方法を考える。 人数を増やして音量を増す。 楽器の種類を変えて音量を増す息の使い方などで音量を増すなど ・シートへの記入や話し合い	・そのフレーズを何回繰り返すと自分たちのイメージに近づくかを話し合いで決めさせる。 ◇観点1-② 強弱や速度を工夫する楽しさを感じながらパターンの反復と変化をつくらうとしている。<ワークシート・観察> ◇観点2-③ 反復における強弱や速度の工夫をしている。<ワークシート・観察> 授業の視点② 音楽的な感受や表現の具体的な評価の在り方
5 1～2グループの発表を聴く。	◇観点3-② 基になる旋律に強弱や速度の変化を加えて、創作している。<観察・演奏発表> ・友だちの発表を聴くことで感じたことを発表させる。	
終末	6 自己評価カードに記入する。	・自己評価をすることで次時への取り組みに生かしていく。
	7 次時の学習について知らせる。	・次は発表をすることを知らせる。

## 9 板書計画

つくろう！くりかえしの音楽

くりかえしの音楽の表現の工夫をしよう

ペールギュント だんだん強くなる 速くなる

ボレロ だんだん強くなる 速さは変わらない

工夫

- ・音量を変える
- ・息を調節する
- ・人数を増やす
- ・楽器を変える

使う楽器

- ・リコーダー
- ・鍵盤ハーモニカ
- ・鉄琴
- ・木琴

実物投影機でワークシートを映す

# つくろう！くりかえしの音楽 その2

6年 組 ( )

---

★ふしづくりを工夫しよう！

☆くりかえしの音楽でどんな工夫をしているかな？

ペールギュント組曲を聴いて・・・

ボレロを聴いて・・・

☆班でくふうしてみたいこと

どちらの曲の工夫をするのか？	つまり、それはどんな工夫なのか？	どんな楽器でどのような表現の工夫をするか（回数も）？

<学習して感じたこと>

今日学習してみて思ったことや、もっとこんなことをやってみたいということを書いて下さいね。

---

---